

大牟田市立上内小学校

1 本校のESDの特徴

(1) 「持続可能な発展のための教育」のねらい

身近なふるさとの自然や環境との関わりを通して、他の人と積極的に関わりながら環境保全のための実践に取り組む態度を養い、持続可能な社会の担い手を育成する。

(2) 「持続可能な発展のための教育」の推進方針

- 環境教育を基軸とし、地域の自然や人材との共同によるESDを推進する。
- 各教科・特別な教科道徳・総合的な学習の時間・外国語活動・その他の教育活動を有機的に関連させる。
- 児童の体験・体感を重視し、探求や実践を重視する参加型アプローチとなるように努める。
- 活動の場において、児童の自発的な行動を引き出すことができるような体験活動を行う。
- 新たな地域人材の発掘と共同による地域に根ざしたESDを推進する。
- ESDに関する資料を収集・蓄積し、活用を図るとともに、その取り組みを積極的に発信する。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) 育てたい能力・態度

- | | |
|---------------|------------------|
| ①批判的に考える力 | ②未来像を予測して計画を立てる力 |
| ③多面的・総合的に考える力 | ④コミュニケーションを行う力 |
| ⑤他者と協力する力 | ⑥つながりを尊重する力 |
| ⑦進んで参加する態度 | |

(2) 学年別の主な活動

- 【1年生】「はるのかみうち」「なつのかみうち」「あきのかみうち」「ふゆのかみうち」
〈⑥⑦：生活科〉
- 【2年生】「はるのかみうち」「なつのかみうち」「あきのかみうち」「ふゆのかみうち」
〈⑥⑦：生活科〉
- 【3年生】「岡川（汐井川）を調べよう」「上内よかここ見つける隊」
〈②③⑥：総合的な学習の時間〉
- 【4年生】「リサイクルについて知り実行しよう」
〈③④⑥⑦：総合的な学習の時間〉
- 【5年生】「米作りから学ぼう～上内の米作りの特徴～」
〈①②③④⑤⑥⑦：総合的な学習の時間〉
- 【6年生】「米作りから学ぼう～気仙沼とつながる～」
〈①②③④⑤⑥⑦：総合的な学習の時間〉

3 特徴的な活動事例

〈第5学年 総合的な学習の時間 単元名「米作りから学ぼう」〉

(1) 目標

○地域の方との米作りを通して、地域の自然や環境に関心を持ち、地域の方の努力や思いを知り、地域への愛着を持つことができる。

(2) 単元構成

- ①社会科で学習したことをもとに、上内校区の米作りの特徴や気仙沼とのつながりについて6年生から聞き、活動の見通しを持つ
- ②苗作り、田植え、稲刈り、脱穀などを体験する。
- ③上内米の「おいしさ」や「安全性」について調べたことを分かりやすく伝え

るためにリーフレットにまとめ、「上内っ子米」を6年生と協力して販売する。

④「感謝祭」に米作りでお世話になった方を招き、自分たちが調べたことや米作りについて感じたことなどを発表して、学習のまとめをする。

(3) 実際の展開

上内農地水環境委員の方々をお迎えして、5月29日に「稲粃の種まき」を行った。薄いプラスチックの容器に平らになるように培地を入れ、その上でできるだけ均等になるように稲粃を並べ、水をかける作業である。見た目は簡単そうだが、「結構難しい。」と子どもたちはつぶやいていた。

6月18日、育った稲の苗を植えた。まずは、足に「足袋」をはき、「人間代掻き」の始まった。普段、滅多に田植え前の田んぼに入ることがない子どもたちは、柔らかい泥の感触を楽しみながら、田んぼの土を自分たちの足で軟らかくした。そして、いよいよ「田植え」の始まり。束になった苗を3～4本ぐらいを1株として、まっすぐ均等に植え付けていった。腰を曲げての作業は子どもたちにとってなかなか大変だったようで「腰が痛い。」とつぶやいている子もいた。

9月19日、いよいよ大きく育った稲穂の「稲刈り」を行った。のこ鎌だけがをしないよう1株1株ていねいに切り取っていった。「昔の人たちは大変だったんだなあ。」と腰を曲げてのきつい作業に昔の人々の大変さを実感できたようだった。

さらに、「安心安全な上内米」について調べたことをリーフレットにまとめた。中には、地域のお米屋さん自ら足を運び、上内米のことを調べた子どもたちもいた。

12月4日、あいにく強い雨が降る日でしたが、道の駅花ぶらす館で「上内っ子米」の販売を行った。その際、自分たちがつくったリーフレットもいっしょに配布し、上内っ子米のおいしさや安全性などの情報発信をすることができた。

そして、12月13日、今までお世話になったの方々をお招きして「収穫祭」を開いた。収穫祭では自分たちが刈り取った稲わらを使って「しめ縄」の作り方を教えていただきながら、わらをよって縄をつくった。なかなかうまくいかず悪戦苦闘しながらも地域の方々の手助けもあり、立派なしめ縄をつくることができた。その後、羽釜で炊いたお米でつくったおにぎりや給食を招いた方々といっしょに会食し、自分たちが調べたことやこれまでお世話になった感謝の言葉を述べて収穫祭を終えることができた。



【地域の方との田植え稲刈り体験】



【上内米のリーフレットづくり】



【感謝祭でのしめ縄づくり】

4 本年度の成果と課題

○成果

- それぞれの学年で地域教材を生かして環境教育を中心に ESD の取り組みをすることができた。その中で、地域の方々の努力や思いを知ることができ、地域への愛着を深めることができた。

●課題

- 各学年の取り組み内容や単元構成などの見直し・修正。
- 地域・他校との交流のあり方の工夫。

大牟田市立上内小学校

1 本校のESDの特徴

(1) 「持続可能な開発のための教育」のねらい

身近なふるさとの自然や環境との関わりを通して、他の人と積極的に関わりながら環境保全のための実践に取り組む態度を養い、持続可能な社会の担い手を育成する。

(2) 「持続可能な開発のための教育」の推進方針

- 環境教育を基軸とし、地域の自然や人材との共同によるESDを推進する。
- 各教科・特別な教科道徳・総合的な学習の時間・外国語活動・その他の教育活動を有機的に関連させる。
- 児童の体験・体感を重視し、探求や実践を重視する参加型アプローチとなるように努める。
- 活動の場において、児童の自発的な行動を引き出すことができるような体験活動を行う。
- 新たな地域人材の発掘と共同による地域に根ざしたESDを推進する。
- ESDに関する資料を収集・蓄積し、活用を図るとともに、その取り組みを積極的に発信する。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) 育てたい能力・態度

- ①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的・総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する力 ⑥つながりを尊重する力
- ⑦進んで参加する態度

(2) 学年別の主な活動

- 【1年生】「はるのかみうち」「なつのかみうち」「あきのかみうち」「ふゆのかみうち」〈⑥⑦：生活科〉
- 【2年生】「はるのかみうち」「なつのかみうち」「あきのかみうち」「ふゆのかみうち」〈⑥⑦：生活科〉
- 【3年生】「岡川（汐井川）を調べよう」「上内よかここ見つける隊」〈②③⑥：総合的な学習の時間〉
- 【4年生】「校区に流れる川の環境を調べよう」〈③④⑥⑦：総合的な学習の時間〉
- 【5年生】「米作りから学ぼう～上内の米作りの特徴～」〈①②③④⑤⑥⑦：総合的な学習の時間〉
- 【6年生】「米作りから学ぼう～気仙沼とつながる～」〈①②③④⑤⑥⑦：総合的な学習の時間〉

3 特徴的な活動事例

＜第4学年 総合的な学習の時間 単元名「校区に流れる川の環境を調べよう」＞

(1) 目標

○校区を流れる岡川の環境（生き物、水質、ごみ等）を調べることを通して、自分たちの地域のよさを発見し、愛情を持つとともに、自分たちが住む地域の環境を保全していこうという思いを持つことができる。

(2) 単元構成

- ①社会科で学習した上水・下水のことをもとに、校区を流れる川の水質について関心を持ち、川の環境を調べるという活動の見通しを持つ。
- ②校区地図をもとに、いつ、どこで、どんな調査ができるか学習の計画を立てる。
- ③ネイチャーガイドの柿川先生と一緒に、校区を流れる岡川について、パックテストによる水質調査



や生き物調査を行い、校区を流れる川の様子について知る。

④調べて分かったことをもとに、グループごとにまとめる。

⑤まとめたことを「川の環境調査報告会」として保護者へ伝えたり、まとめたものを掲示して、全校児童へ発信したりして、学習のまとめをする。

(3) 実際の展開

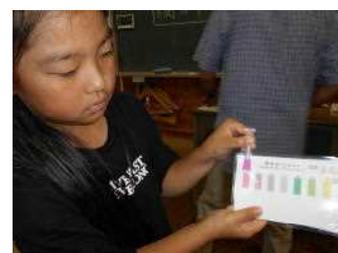
【課題設定】

社会科の学習で、自分たちが使用する水が川の水を浄水して届けられていることや、使用後の水が浄化施設に集められ、浄化されて海に流されている学習をしていることから、子ども達は「自分たちの校区を流れる川の水はどうなっているのか?」という疑問を持ち、岡川を調査するという学習計画を立てた。



【実態調査】

そして、川の環境について詳しいネイチャーガイドの柿川先生をGTとして招き、実際に川に入り、水質や生き物の調査を行った。調査した岡川には15種類もの生き物が生息していた。さらに、パックテストや透視度計を使い水質検査を行うと、汚れがほとんどないとてもきれいな水であることが分かった。岡川の水は市内の堂面川に合流し、最後は有明海に流れていく。川の水が汚れることは、海の水を汚すことになり、そのごみを口にした魚が自分たちの食卓に並ぶかもしれないこと、汚れた海の水が蒸発し、雨水となり、川の水になることなどを柿川先生から教えていただいた。そして、自分たちの周りにある環境が関わり合っていること、一つの環境汚染が様々な場所へ広がっていくことが分かった。このことから、まずは自分たちにとって身近な校区の川を汚さないことの大切さを実感した。



【情報発信】

校区の川がきれいな川であること、きれいな川をいつまでも残していくことについて、子ども達は身近な人々へ調べたことを伝えるためにグループごとに分かったことをまとめた。そして、「川の環境調査報告会」を開き、校区を流れる川がきれいであること、このきれいな川をいつまでも残していくために協力して欲しいことを保護者へ伝えた。さらに、まとめたものを校内に掲示し、川の環境を守るために「川にごみを捨てない」「生活排水の原因になる食べ残しをしない」「環境に良い洗剤を使う」ことを心がけようと自分達にもできることを呼びかけることができた。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・それぞれの学年で地域教材、人材を活用し、環境教育を中心にESDに取り組むことができた。
- ・地域の環境や、GTの方との関わりの中で、地域への愛情、環境を守る努力や思いを知ることができ、地域への愛着を深めることができた。

○課題

- ・地域に残る教材化していない文化財の活用についての検討。
- ・各学年の取り組み内容や単元構成などの見直し・修正。
- ・学習したことをさらに広げるための「自分たちにできること」を考えた発信の工夫。